

4.5 堆砂計画

切目川ダムと同様日高川層群に属する
3つの近傍類似ダムの堆砂実績から算定した確率比堆砂量をもとに、堆砂量に影響する主要因と考えられる比崩壊地面積との関係から求められる切目川ダムの確率比堆砂量は、 $250\text{m}^3/\text{km}^2/\text{年}$ となる。

また、切目川ダムは、地貌係数が同等、河床勾配が同等、流域に崩壊地がない等の理由により、近傍の広川ダムと特に類似していると考えられ、 $250\text{m}^3/\text{km}^2/\text{年}$ は、広川ダムの年堆砂量期待値（ $220\text{m}^3/\text{km}^2/\text{年}$ ）相当であり妥当と言える。

このときの堆砂容量は
 $550,000\text{m}^3 (=547,500\text{m}^3 = 250\text{m}^3/\text{km}^2/\text{年} \times 21.9\text{km}^2 \times 100\text{年})$ となる。

※七川ダムは切目川ダムの近傍ではないため、前回の第14回委員会以降、実績比堆砂量の推移のグラフから七川ダムは削除した。

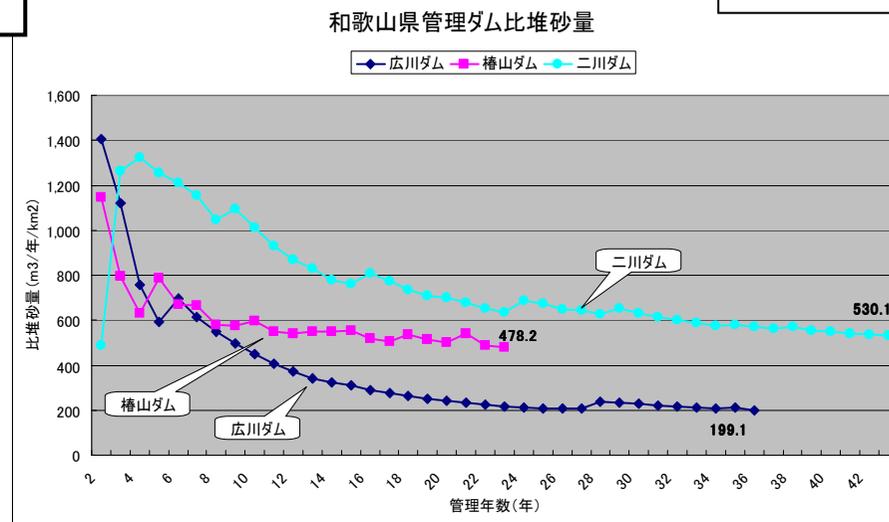


図 近傍ダムにおける実績比堆砂量の推移

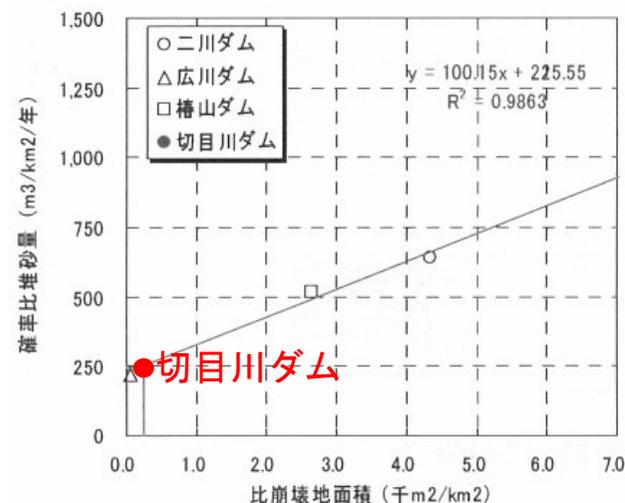


図 確率比堆砂量と比崩壊地面積との関係

■ 流水の正常な機能を維持するために必要な流量（正常流量）

